

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290300017		
法人名	有限会社それいゆ		
事業所名	ぐるーぷほーむ「しあわせの家」かんなみ		
所在地	静岡県田方郡函南町間宮617-3		
自己評価作成日	平成 30年 3 月 2 日	評価結果市町村受理日	平成 30年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	平成 30年 3月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方の行動心理症状(BPSD)のほとんどが本人の周辺環境(人的、物理的、社会的)によるダメージが影響しているといわれている中で、特に人の中でも職員のスキルアップに力点を置いています。認知症のプロ集団にふさわしい知識と応用、接遇は重要と考え、ご本人や家族の安心に向けた取り組みを怠りません。ホームの透明性の指標として、ホーム利用者の外出頻度や家族を含め地域の方の訪問の月間延べ人数を出し、職員は傾向を確認しています。職員のモチベーションを高く維持するために、3月と9月に個人面談と目標管理を実施し、成果発表等可視化と共有を推進しています。可視化することで、互いを知り、立ち位置が確認できます。これらは、自己評価を中心に進めることで自発性を促すことにもつなげています。介護職員の他に看護師、専任調理士が常勤しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田んぼの見える住宅街にあり様々な取組みをしている稀有なグループホームです。先進的な点は①会議録だけではなく人材育成やケアプランまた日々の記録とパソコンを駆使しています。施設長独自に考案したエクセル表でそれらを数値化(見える化)して職員に会議や掲示等で周知しさらに目標管理する事で事業計画やケアプランもPDCAサイクルで展開しています。②法人研修・施設内研修が重層的に実施され毎月の職員会議でも「ミニテスト」等研修が小まめに取組まれています。③職員の離職が少なく長く勤めている方が多い施設でこれは職員満足度が高いと考えられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で、議事次第のレターヘッドに理念運営方針を帯表示しており、3か月に一度は読み合わせをしています。また、各ユニット入り口に理念の掲示があり、常に目にし、利用者本位を実践しています。	法人の理念・経営方針・運営方針が施設パンフレットに明記されている。ホーム内にも掲示や職員会議の議事資料のトップに帯表示がされ共有化を図り、また職員「ミニテスト」等で理解度を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	サロンに参加して10年が経過し、顔の見える関係ができています。利用者が縫った雑巾を100枚幼稚園に寄贈し、園児の生活発表会に招待されました。農業高校とはグリーンセラピーの交流をしています。	地域の中で「オレンジカフェ間宮」を立ち上げ月1回継続している。近隣の保育園や農業高校との交流も持たれている。地区の敬老会に加えて防災訓練等でも地域住民との交流を拡げてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関する研修への講師派遣やサポーターキャラバン活動、認知症カフェの実施し、認知症に関する症状や対応の仕方についての相談に応じています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、地元の区長、民生委員、行政の方々の参加を得て、年に6回実施しています。この中では、利用者の暮らしぶりや、地域交流、その他、認知症の知識コーナーを設け、広く知ってもらえる機会にしています。	家族の代表も参加され区長、民生委員、行政を交えて平日に開催されている。事業所紹介は提供サービスの実施回数に加えてヒヤリハット件数や職員研修状況等まで公開されスライド上映等の工夫も見られる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政で作成する認知症ケアパスの編集協力に参加したり、地域ケア会議、地元の認知症疾患センターで実施する研修やシンポジウムに参加しました。	行政が主催する研修会に加えて認知症ケアパスの編集等協力的に関わり行政と関係を築いている。また町内グループホームと地域包括が集まる連絡会にも積極的に参加し情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者本位のケアを推進しており、身体拘束禁止、高齢者虐待防止に関する研修を年間研修メニューとして実施しています。身体拘束禁止の宣言ポスターを入りに掲示し、常に意識するように努めています。	身体拘束ゼロ宣言のポスターを窓口に掲示しており、職員研修や職員会議でも身体拘束禁止について取り上げている。ユニット内は24時間開放されているが、ホーム玄関は日中でも施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止学会に参加しており、学会から発信されるニュースや論文等部内回覧しています。職員には毎年、不適切ケアの自己評価をしてもらい、その結果を掲示しており、前年度との比較できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者がおられ、同制度について理解を深める研修をしています。このほか社会福祉協議会で実施する支援についても学習の機会を持っています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書を読み上げ、利用者家族に理解できるよう、口頭説明を追加しています。介護保険制度上の運用に係る介護計画についても、そのねらいと主旨についてお予め説明しています。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年8月に実施する家族アンケートで質問事項への回答の他、自由記述欄を設け、利用者にごうすごして欲しいか、など意見を聞く形をとっています。得た意見は介護計画に反映しています。	年1回家族アンケートを実施している。アンケート用紙は項目が設けられる事で意見や要望をできるだけ出してもらえよう工夫されている。ホーム運営だけではなく介護計画にも要望が反映されている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3月と9月に全職員の個人面談を実施しています。予め面談シートに記入してもらい、管理者はポイントを絞った面談をしています。職員から記録の効率化や誤薬防止のアイデアがあり、業務に反映しています。	1ユニット毎で月2回職員会議を開催し必ずどちらかの会議へ参加できる勤務表を作り運営の周知と意見を聞く機会になっており、年2回施設長との個別面談が行なわれ直接意見を言える機会を設けるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	期初に発表する事業方針に基づいて、各自年間目標を設定して、実施しています。中間ヒアリングでは、進行度合いのチェックをし、管理者ヒアリングを受けています。ここでは、方法論や進め方についてコーチングも実施し、目標を完遂するための検討の場になっています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議は90分のうち、連絡調整、研修、カンファレンスに概ね30分掛けています。カンファレンスでは全員が各意見を予めシートに書き込み、司会者は各自の意見を引き出す機会となっています。研修では認知症に特化し、研修した内容を3か月に一度効果測定をしています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の4か所のグループホームと地域包括支援センターの担当者が3か月に一度集まり、情報交換やテーマを決めて話し合いをしています。互いの困ったことを解決していく場として、効果的な場となっています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回訪問時は、地域の中の本人の環境や社会背景を鑑み、現在、何に困っているのか、じっくり話を聴くことが重要であり、信頼を築くために必要なことと認識しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の訴えに耳を傾け、共感したうえで、本人の自己実現までのどの段階にあるかを認識し、その段階に合わせた支援はどうかを、家族と一緒に考えるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の様子から、直ちに必要なのは何かを推測し、話し合った上で、どのサービスの内容がよいか吟味し、一つに限定しないで希望に応えられるよう支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できないところを支援することを基本としています。、本人のできることやわかることから学ぶものがあり、持つてくる強みを引き出す、ストレングスに着目したケア念頭に支え合いの介護を目指しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを理解し、そのことに寄り添いつつ、分かち合うことで次のステップに登れるというところをよりどころに、時間をかけていくことが大事ではないでしょうか。家族と共にあるとことを意識した支援をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの美容院や地元でなじみ深い公園の桜の花の時期の花見など、グループホームに入居後も行く機会を持っています。また地域で有名な「オラッチェ牧場」があり、ドライブをかねてみんなで出かけています。	近隣からの入所者が多い事もあり面会や知人の来訪が多い状況となっている。外食へ家族と出かけたりお正月は自宅外泊する等馴染みの関係性が継続しています。ホームも地元の公園へ外出機会を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席の配置など、ペース配分が似ている方同士、または気が合う利用者同士の席など配慮しています。また、一人だけ外れることのないよう、職員が中に入ったりして融和な雰囲気保てるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから他の事業所に移動した利用者について、追加情報を求められた場合等、丁寧な対応に努めています。また、退居された家族も気軽に立ち寄っていただけるよう、お伝えしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式アセスメントツールで本人の様子を伺う C-1-2シートを各職員が分担し、作成しています。ここでは本人に寄り添い、本人自身がうれしいこと、やりたいことなどを本人に成り代わって記入しています。	入居すると家族へセンター方式のアセスメントシートを渡し概ね1か月かけて記入していただき、その間に職員はホームの様子を観察したり本人から思いを聴き取りながら意向を把握してケアプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテークで得られた情報は全職員が回覧し、これまでの暮らし環境や本人の家族の思いを共有しています。さらに介護計画においては職員の日常のコミュニケーションで得た情報を反映しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の早出と遅出の職員は、利用者の中から1名を選んで、回想やリアリティ、バリデーション等、いずれかの手法を使ってのコミュニケーションを図り、記録に残すようにしており、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員は上述のC-1-2シート記入の他、毎月のカンファレンスで、予め指定された方の様子を準備シートに記入し、臨むようにしています。事前記入により全職員からの意見が収集し、介護計画に反映してしま	担当だけでなく全職員が準備シートに様子や課題を記載しそれを施設長が整理してカンファレンスし介護計画を作成している。作成した介護計画の実施状況は業務日誌で点数化しモニタリングに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の①長期目標→②短期目標→③本日のサービス内容において、③においては日々、実践したかどうかの実施記録をしています。スムーズな実践の可否は介護計画に反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療対応の必要な方で、このままホームで過ごしていきたい方に対してドクターに相談し、医者の指示で訪問看護を部分的に導入して、医療的処置を継続して、ホームで過ごせるよう協同しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	インフォーマルな社会資源の活用として、近所のドラッグストアに日用品を買い物に行って支払いをご自身でしてもらったり、地域のいきいきサロンに出かけたりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでかかってきたかかりつけ医をそのまま継続している方が2名おられます。その他の方はグループホームの協力医(かかりつけ医)が月に2回及び緊急時の往診をしています。	ホームの協力医が月2回の定期診察のほか、緊急時には夜間でもオンコールにて対応してもらっている。家族や利用者の希望があれば入居以前のかかりつけ医にお願いをしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常勤職員として勤務しています。土日及び夜間はオンコール対応をしております。緊急時の指示や医師との連携をしています。感染症対策や同研修企画について全社の看護師とも協働して取り組んでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師は、利用者が重度化したり、緊急性が高い時は、かかりつけ医に相談し、医師が入院先との調整を図っています。入院時も病院を訪ね、痰飲に向けた受け入れ等の対応を管理者と相談するなどの対応をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化指針を説明し、終末期対応の意向を伺っています。終末期に差し掛かったら、医師を交えて家族に状況と対応の説明し、看取り対応には家族の協力も要請しています。(これまで2例あり)	入所時に書面で説明をし、重度化や終末期を迎えた時には面会時に様子を伝えながら、家族も交え終末期のカンファレンスを行なっている。終末期にはホームに泊まる等家族の協力を得て最期まで過ごされたケースもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変時は直ちに医師に相談し、支持を仰いでいます。さらに急変時は看護師のしじで応急手当をし、緊急連絡網に従い、連絡しています。同時の家族にも連絡しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年に2回実施しています(夜間想定含む)。防災設備会社の他、年に1回は消防署の参加があります。前回は初めて地域住民の方(2名)の参加がありました。	防災訓練は消防署と連携を取り年2回行っており、近隣住人にも参加し協力してもらった。また地域の防災訓練にホームとして参加している。設備点検は防災設備会社に依頼して定期的確認している。	地震が発生したときは家具や物が散乱します。安全に避難行動ができるよう、職員室ロッカー上の物品に落下防止の対策や各部屋の地震対策等の点検することを望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者に対する接し方には敬意を表し、接遇や言葉使いには注意をしています。羞恥心への配慮はもとより、不適切ケアの自己評価を年に一回実施し、自分自身を振り返るようにしています。	職員会議等でケアの方法やプライバシーについて話し合っている。年2回は職員自己チェック表を用い不適切ケア等について振り返り、それを掲示することにより、自分がどうあるべきかを考えて行動するようしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添いや日頃のコミュニケーションをとおして、センター方式のC-1-2のシートを使って本人の気持ちの代弁を年に一回、職員に記入してもらっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れのプログラムは、その日のキャップテンが責任もって進行しているが、天気や利用者の体調によっては、個別対応を取り、本人の希望に添うようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	エプロン姿で過ごしたり、好みの上着を選んでいただき、常に清潔な身だしなみを支援しています。また、馴染みの美容院に行く方のおられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は毎日買い出しに行き、新鮮な食材による手づくりの食事を楽しんでいます。食材によっては皮むきや、もやしのひげ取り、食後の片付けなどの手伝いをしてもらっています。誕生会では、刺身やてんぷら、煮物などを好きなリクエストに応えるようにしています。	利用者の希望を聞いてからメニューを決め食材を購入している。調理や片づけ等利用者ができることは手伝ってもらっている。庭で育てた野菜を食べたり、誕生会では、手作りのケーキを作って楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取や、食事の摂取量は日々確認・記録し、体重の増加や身体の状態に合わせて、看護師と検討したうえで調整・管理しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日に三回の口腔ケアを実施しています。職員は研修をとおして、誤嚥防止やおいしく召し上がってもらうために重要であることを認識し、丁寧な対応をしています。訪問歯科の受診は月に4回実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間、リハビリパンツを使用している方も日中は布パンツにしてみようなど、自立に向けた支援を実施しています。	できるだけオムツにならないようトイレに連れて行っている。リハビリパンツ、尿取りパットを使用している利用者には使用記録を取り、布パンツになるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の記録から、便秘気味の方は、水分量やホットミルクで様子を見たり、腹部マッサージ、下剤服用、浣腸、服薬中の薬の副作用がないか等、状況に応じて看護師や医師に相談して個別に対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ミカンの皮を干したものをに入れて香りを楽しんだり、菖蒲湯など季節感を感じられるお湯を提供しています。午前・午後を問わず、利用者の希望に添うようにしています。	主に午後の時間帯で利用者の希望に応じて入浴をしている。最低週2回さらに希望により入浴回数を増やしている。ゆず湯、菖蒲湯などの季節風呂を取り入れ、ひとり30分くらいをかけゆったりと入れるようしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方には、静かな音楽の中、ゆったりと話を聞き、落ち着いたのを待った対応をしています。またテレビ番組によっては一緒にみて、共有の時間を過ごして、眠りの途に就くのを待ちます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①配薬時の職員「二人確認」、②利用者の面前で「声出し伝達」、③「呑み込み確認」をルールにしています。さらに向精神薬の種類・薬品名・副作用等職員研修のメニューに入れて勉強しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	草花の水やり、食器洗い、食器拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみ、チラシで作るごみ入れ等、役割をもって仕事をしてもらっています。また、買い物には職員が同伴し、自分で支払いをしてみようなど支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	好天の日は外に出るようにしています。近くの店や、公園までの散歩、近隣市内の他、箱根や土肥方面へのドライブ、等日常的に外出しています。車いすの方は、園庭に出て花をみたり、田んぼを眺めて四季の移り変わりを実感してもらっています。	天気の良い日はその日に希望を聞き近くの公園等にドライブへ出かけたり、四季の花や景色を楽しみに市外まで出かけることもある。日常的にテラスに出て日向ぼっこをしたりしている。墓参りや外食に家族と出かける方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ドラッグストアに職員と同行し、買い物をして自ら支払ってお釣りを受け取る等、一連の行為の支援をしています。家族によっては少額の範囲でお金を預けてもらうよう入居時に話しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かつての仕事仲間や友人から、絵手紙をもらい、その返事作成は本人と一緒に職員も支援をして作成しています。家に電話したい方や、帰りたい方等電話の利用を促し、家族の声を聞いて安心してもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よい音空間の演出や台所の調理の湯気や香りなど、利用者の1日の流れの中で日々のリズムや感性を暮らしの中から感じ取れるようにしています。テラスの前面には田んぼが広がり、四季の移ろいを見ることが出来ます。	BGMが常に流れ、午前と午後で曲想を変えその場に合った雰囲気を作っている。また食事時間はNHKラジオを流している。居間は南面の大きな窓からたっぷりな陽射しが取れて明るく、また昔懐かしい田んぼの景色が見えている。	昼食後ゆったりと居間で過ごされている時間帯の職員動作が少し気になりました。入居者と同じ様な遅いペースを心がけ居心地良い雰囲気づくりに期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子の他、和室の上り框に腰かけて二人で話し込むなど、思いおもいに落ち着ける場所を選んで使っておられます。食事のテーブルは時々配置や場所を変えたりして自由性を尊重しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個室は、慣れ親しんだ家具、家族の写真などをしつらえて、自分自身の部屋を実感できるようにしています。また家族が持ってこられた季節の鉢植えの花を飾っている方もおられます。	入所前から使用していた家具を入れたり、好きだった品物や家族写真を飾る等、本人が落ち着く部屋作りに工夫をしている。居室の入り口には写真や作品が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テラス横には洗濯物を干す竿竹があり、毎日の洗濯物を利用者に干してもらっています。草花への水やりや草むしり等やれることをなるべく利用者にやって頂くよう支援しています。		